2011年3月26日

こども環境研究会セミナー報告(11年度第1回)

概要 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

1．主催　　こども環境学会 北陸こども環境研究会
2．日時　　2011年3月26日（土）13:30-17:30
3．場所　　日本福祉大学富山オフイス（ＣＩＣビル４Ｆ）
4．参加者　（エントリー順）　　以降敬称略
出席者：早川隆志、富樫豊、　粟原知子、吉本弘明、
藤井徳子、櫻井典子、澤田真由美、宮下利幸、
南部治夫、青山仁、　塚田由佳里、片山リナ、
泉田芳徳、出分玲子、藤井智加　　計15人
参加希望の欠席者：
桜井康宏、小林曜子、石倉卓子、澤井保子、
鮎川正、飯田良智、大西宏治、今村由利子、
坂井修一、丸谷芳正、丸谷文恵　　計11人
5．次第　　進行・記録：早川、富樫
第一部　意見交換会　13:30-16:00頃
話題提供者 20分/題
・吉本宏明（有機建築　左吉）
：子供の城づくりにかかわってみて
・藤井徳子（森のこども園）：ドイツの幼稚園・保育園
・櫻井典子（新潟大学）
：子どもが多様な大人によって育まれる住環境としてコレクティブハウジングと子育て
・南部治夫（彫刻家）
：呉羽山ビジターセンターその後について
・早川隆志（こども遊ばせ隊）：発達障害について
第二部　研究会交流　16:00-17:30
・会の位置づけと運営・活動の骨子について
東日本大震災に関連して基本スタンスと今後
・八尾風の盆セミナーの具体化、
・次回予定、他

第一部 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

以下に意見交換会の発言記録を記します。ただし、記録者富樫による記録ですので、発言者自身のレポートとはなっておりませんのでご注意ください。
なお、会場写真は吉本撮影です。

1．早川隆志：あいさつ、これまでの経緯を含めて趣旨説明

私は、子供をもっと遊ばせなくてはいけないと主張し続けております。3年前の春には、イタズラ村の取り組みについて子供環境学会活動賞を受賞いたしました。その後、イタズラ村で事故が起こり、昨年やっと裁判所から略式命令をうけ、一段落いたしております。昨年は、仙田先生から、呉羽山ビジターセンターなる構想があり、意見を聞かせてほしい旨の要請を受けて、子供教育や自然保護に関心ある方々を募り、４回ほど会議を持ちました。ビジターセンターの初期の構想は頓挫いたしましたが、そのときの集まりを今後につなげていけないものかと思案していましたら、賛同者が意外にも多く、話がどんどん進行して子供環境学会富山支部の結成まで盛り上がりました。早速学会事務局長中山様に相談したところ「支部という組織はないが地域の研究会をぜひ立ち上げて」と発破をかけていただき、研究会の発足とともに、今日の意見交換会を迎えることができた訳です。この会では、いままでどおり沢山の方々にご参加いただきたいという趣旨は変わっておりません。ただ運営主体が研究会になっただけであります。みなさん、今日は大阪や新潟からも駆けつけていただいております。大いに語り合いたいと思います。よろしくお願いします。

2．自己紹介　参加者全員で自己紹介をおこなった。

3．吉本宏明（有機建築　左吉）
：子供の城づくりにかかわってみて

富山県建築士会青年部では4年前に5年間継続で富山県林産課から「県産材をつかったこどもの城作り事業」の委託を受けた。この事業は、事業に参加を希望する県内の幼稚園一園の園児を対象として、園児に夢のある家を画用紙に描いてもらい、それをもとにダンボールなどで（１m立方ほどのスケール）実際につくり、そのなかで専門家が一個を選び、実際に設計（小屋のオーダー）して園庭に施工するというものである、という。

講師は、昨年滑川市の幼稚園で行った事例を紹介した。彼によると、園児が描いた絵は私たちもびっくりする想像性のある面白いものばかりで、専門家の方がかえって勉強になった。実際に作る段階になると、園児が参加しにくく暇をもてあそぶこともあり、考えたいと思っている。とはいえ、これまで作った城はどこでも楽しく遊んでいるとのこと、うれしい限りである。とのことであった。

4．藤井徳子（森のこども園）：ドイツの幼稚園・保育園

夫の転勤でカナダとドイツに生活していた7年間、わが子

育てを通して、特にドイツの子供教育に大変関心を持ったので、ここに体験談を報告するという切り出しから始まり、シュタイナー教育、それを下支えするシュタイナー建築についてスライドを交えての談義となりました。

まず、シュタイナー教育の説明として、アウスブルグのシュタイナー幼稚園での日常を紹介された。園では、芸術、色、自然素材を大切にし、「7さいまでは夢の中」として、できるだけ刺激を与えないように生活を営み、日々の暮らしが芸術的であるという。

次に園における生活の説明があった。建物はシュタイナー建築として90度の角がないもの（長方形平面ではない）であり、10角形や6角形の部屋のものであり、壁には芸術作品が飾られているという。食器は陶器であり、人形は自然素材のものであり、日本の幼稚園のような派手な原色のものやプラスチックやアニメのようなものは一切ないとのことであった。

最後に、カナダ・ドイツでの経験を生かして、富山においてボランテイアで行っている「森のようちえん」事業について説明があった。園舎はなし、外で遊ぶ、ものであり、週に一回のペースで子供を集めており、特徴としてはお父さんたちをまきこむようにしているという。（ドイツでは400以上もあるという）

HPより引用

5．櫻井典子（新潟大学）：子どもの豊かな育ちを支える住環境コレクテイブハウジング

コレクテイブハウジングとは居住者が主体的に住むことを育む集合体のことであり、講師は東京日暮里にある「コレクティブハウスかんかん森」にたずさわったので、ここに報告するとのことであった。そこでは、住戸の延長としての豊かなコモンスペースがあり、日常的にはコモンミール（共同の夕食運営）が週２・３回あり、学びあい、楽しみ、地域交流を図る場ともなっている。ポイントは、ひとりでゆっくりすることもできれば、仲間と一緒にいることもできるところにある。という。

続いて当該建物について子どもの視点からの説明があった。子どもの開かれた空間があれば、遊び場としての多様性や、子ども同士の自然遊び、多様な人に育まれる環境、家事労働や子育て負担の軽減などが図れるという。

最後に、新潟三条の越後線高架に伴った空き地利用として地域の方と新潟大学の学生とによるポケットパークの取り組みが紹介された。子どもも含めてまちをつくることが子どもの中では愛着となっていくということを主張されていた。（このほか、まちなかカフエの話もあり）

6．南部治夫（彫刻家）：呉羽山ビジターセンターその後

富山県中央部に位置する呉羽山の東側にプレイパーク的な自然公園を作る計画が富山市にあり、こども環境学会元会長の仙田先生が企画立案（ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ建設も含めて）に当たっておられた。昨年、先生から企画運営について皆さんから意見をお伺いしたいとのことで、富山において計4回の意見交換会を実施した。しかしながら、富山市側から呉羽山西側にあるファミリーパークがあり、新たに予算をつけて企画を実施することはしないとの回答があり、トイレなどからなる簡単な建屋をもつ公園に企画がトーンダウンした。こうしたなかで、講師が富山市との交渉にあたり、なんとかもっといいものにしようと孤軍奮闘されていた。

講師は、富山市の担当部局の方々も何とかしたい旨の思いがあったので、自分が提案する話はしっかりと聞いていただけたという。彼は、単に公園のみ作っておしまいではなく、「ふるさと再生・地域活性化」を図っていく構想の一環として捉え、イベントの開催や特産市場や幼稚園・保育園教育の野外教室など考えていくと熱っぽく語っておられた。なお、富山市呉羽丘陵地域活性化連絡協議会（仮称）をたちあげ体制を作っておられるとのことであった。

仙田先生のｽｹｯﾁ

7．早川隆志（こども遊ばせ隊）：発達障害について

遊びを介して人とかかわり人を変えていきたいと願い、子供や大人も皿回しで遊ぶことを実践され、子供と大人のコミュニケーションとしての効用はもとより（皿回しは上を向い

て遊ぶものだから）生理学的にも上向き姿勢として非常によい、と力説されておられた。

大人のコミュニケーションについて持論を紹介されていた。大人は自然環境だの緑の環境だの熱心に唱えているが、（それもいいが）もっとも大事なのは大人が子供に対してつくる環境であるはずである。大人が子供と遊ぶことがコミュニケーションの環境をつくるのである。そして、子供のそばにしっかりとした人がついていれば（そうした環境であれば）こどもは健全に育つのである。私は、怒鳴る人ではなく隣にいる人すなわち「となる人」の存在が一番と思っている。

また、障害と遊びについて問題をシャープに捉えておられた。なぜ、発達障害の子供がこうも多いのか。その原因は大人にあり、大人が小さなネグレクトを数多く積み重ねていっているので、子供は発達障害につながるように思えると分析されていた。そして処方箋として、そんな大人の体は大変に硬いので心身ともにマッサージをすべしとか、もちろん皿回しの遊びをもっと定着させたいといっておられた。特に、遊びの効用の例として、アウペルガーの障害の方にも皿回しをしていただいたところとても楽しんでおられ、障害は微塵も感じられなかった、といっておられ、自信の程が垣間見られた。

そして最後に大事なことは、障害に対処する大人の意識を変えなくてはと指摘されていた。障害については、障害は直らないとよくいわれているが、改善されるはずである。しゃべりあう大人がいれば、かならず改善されるはずといいたい。世の中、障害だからとすぐに決め付けてしまう。障害が出なくなるようにすべきなのである。と熱く語っておられた。

第二部 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

１．　子供環境学会全国大会（4/23-25）の開催について

東日本大震災を念頭において当初予定の学会開催について意見を出してほしい旨の学会事務局長中山氏の要請を受けて、これを討議した結果、エクスカーションをやめ会期 3 日間を 2 日間にするという意見でまとまり、中山氏に連絡することとなった。

２．八尾セミナーについて

風の盆にあわせて 9 月 2 日と 3 日八尾の町で実施することにしていたが、参加者に門戸を広げるべしとの意見が多数を占めたので、風の盆とは関係なしに富山市内でセミナーを開催することにし、風の盆の鑑賞は別企画とすることになった。詳しくは次回に検討となった。

３．次回

追って連絡します。

４．参加者の感想

・シュタイナーやコレクテイブなど、関心をもっていたので、ここでそうしたかたがたにあえてびっくりです。
・東日本大震災で被災された方々のためにも、われら日常を楽しくがんばるべし。
・子育てでも大いに参考になった。
・こどものときはアートに触れ、大自然の中で育つ。そんなことをしたいので参加しました。
・元気をもらいました。
・皆様と出会えてよかった。　　・ほか多数あり。